

平成18年度 子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会(第5回) 会議録

1 日 時 平成19年1月29日(月) 午後2時30分～午後5時00分

2 場 所 生駒市役所403・404会議室

3 日 程

- (1) 第4回委員会会議録の承認について
- (2) 預かり保育アンケート調査の結果について
- (3) 少人数教育の実施方法について
- (4) その他

4 出席者

(委 員)

委員長 森井 恵治	副委員長 春見 祥司	委員 阿部 久美子
委員 田中 年男	委員 藤本 誓子	委員 西村 徹
委員 井上 宝	委員 岩田 憲一	委員 朽木 丈二
委員 辻野 トシ子	委員 岩谷 一徳	

(事務局)

教育総務部長 梅本 敏弘	教育総務課長 中田 好昭
教育総務課課長補佐 井坂 達也	教育指導課指導主事 寺田 詩子
教育総務課 楠下 崇子(書記)	

議 事 等 (要 旨)

○ 第4回委員会会議録の承認等について

前回会議録の承認を得るとともにホームページの掲載について報告

○ 預かり保育アンケート調査の結果について

事務局からアンケート結果について報告

・アンケート結果から、多くの保護者が幼稚園と保育園の違いを理解していることがわかる。家庭での親子のふれあいも大切に考えていると感じた。

しかし、預かり保育導入については、「必要」・「どちらかといえば必要」とする意見が全体の90%を占めており、非常時、緊急時に預かり保育という制度があれば安心だという思いをもっている。

実際にやってみないとわからないが、参観や懇談時等、一時的な預かりが多くなると思う。

・預かり保育導入への市民ニーズが高いということはわかった。しかし、職員の負担や幼稚園のよさがなくなることを気にする意見もあった。

保護者の意見を総合的に考えつつ、現場の職員の思いも聞いてもらいたい。また、事務局側で基準等、何かを決定した場合は早急に知らせて欲しい。

・アンケート結果の公表についてはどう考えているのか。

・ホームページに載せる予定をしている。関心のある方は幼稚園へ問い合わせてもらえば、各園長からも報告できる。

・幼稚園と保育園では、子どもと職員の比率に大きな差がある。また、預かり保育の実施によって長時間預かるケースもでてくると思う。健康管理や安全対策など、教師と子ども、どちらにも過度の負担がかからないよう考慮して必要な手当をしたうえでスタートしてもらいたい。

・預かり保育は時間単位か、それとも月何回という形か。

・他市の状況を参考に1日1回で料金を設定し、午後2時から午後4時頃までと考えている。午後4時となるとパートタイマー等、短期就労を理由に預かるケースはあると思う。

・保育所との線引きがある。幼稚園にわずかな料金で子どもを預けながら、仕事に行ってお金を稼ぐというケースは好ましくないように思う。

・しかし、預かり保育は定義上、理由を問わず預かるとなっている。短期就労は他市でも認めているケースなので、実態に照らし合わせて考えていく必要がある。

・毎日午後、パートに行くというケースもありうる。

・原則として継続的なパートは受入条件から外してはどうか。保育園ではなく幼稚園に通わせているのだから、保護者の間で問題になるかもしれない。

・しかし、現実問題として短期就労を理由にしたニーズはあると思う。幼稚園で拒否できるのか。市民サービスとして預かり保育を実施するなら、市教委も幼稚園も覚悟を決めて、人員増などの必要な策は講じて実施すべき。それが無理なら、受入について最初

から厳しい条件設定をしたほうがよい。

- ・もし9月（2学期）から実施するとなると、季節柄、クーラーの設置等、環境整備が必要にならないか。

- ・環境整備については、今後検討していきたい。なお、幼稚園の各保育室には扇風機を設置済みだ。

- ・幼稚園に通園している時期に限定して、夏季休業中は対象外ということでもいいか。

- ・他市では休業中も預かっているところがある。生駒市ではどうするか、いろいろな意見を聞きたい。

- ・通常使用している保育室とは別に、預かり保育用の部屋を確保してもらえるのか。

- ・通常の保育室カリズム室を使ってほしい。部屋や人を増やすとなると予算も伴うし、特に増設は場所の問題や設計も必要となる。これから予算折衝の最終段階に入るが、必要最低限の予算要求を考えている。実施後、必要が認められれば実績に応じて考えていきたい。

- ・毎回、違う子どもが預かり保育で残ることになるかもしれないが、その点はどうか。また、教師側はどういう体制で対応するのか。担当者を決めるのか。

- ・在園児対象なので、知らない子どもではないし心配はない。しかし、長時間預かるとなると子どもが不安を抱くこともあると思うので、あくまでも一時預かりと考えて利用

してもらったほうがいい。

体制については難しい問題だ。翌日の準備や職員会議等も必要だ。

・毎日ではなく、例えば、職員会議のある日は預からないなど、保護者の理解を求めてもいいのではないか。

他に危惧することはないか。

・生駒市では、9園中8園までが通園バスを走らせているが、預かり保育については、送迎は保護者の責任で行い、自家用車は遠慮してもらいたいと思うがどうか。

・送迎は保護者の責任で行うということでもいいと思う。また、その際は現状の各園での決まりごとを守ってもらうということで、自家用車の使用について、あえて定義する必要はないと思う。ただ、家族を病院へ送り迎えする途中など、特別なケースが出てくるかもしれない。

・その場合は、ケース・バイ・ケースで園長判断でお願いしようと思う。

いろいろ意見が出たので、これらを踏まえて園長会の協力を得て実施要綱の素案作りに入りたいと思う。

次回、要綱の案を提出する予定なので審議をお願いする。ただ、保育料（金額未定）を取るとなると条例設置が必要になるかもしれない。その場合は、議会の議決が必要となる。

－ 休憩 －

○ 少人数教育の実施方法について

・前回までのまとめとして、「少人数教育については、少人数学級と少人数指導がある

が、学年や子どもたちの発達段階によって、それぞれ有効だと思われる」「少人数指導は教員の補充で実施可能だが、少人数学級は教員と教室が必要になる」ということがわかってもらえたと思う。

すべての学校、学年で少人数学級を実施することは、講師及び教室の必要数から考えて難しいと思うので、本日は、検討委員会として提言するなら、幼・小・中のどの子どもたちから少人数学級を進めていけばいいか詰めていきたい。

- ・少人数学級の実施は、小学校低学年からお願いしたい。

- ・保護者の思いとして、小学校では少人数学級を実施するだけでなく、クラス数の変動をなくしてもらいたい。

中学校は、前回少人数指導も有効だという話があったし、学級編制だけでなく教科のことも考えなければならないので、少人数学級にこだわらなくてもいいと思う。

- ・小学校1年生で少人数学級編制をした場合、学年全体で少々人数が減っても同じクラス数のまま6年生までいくということか。

- ・6年経てば1年から6年まで全学年で少人数学級制となる。しかし、教員の確保が問題だ。ボーダーラインとなる学年を決めざるを得ないと思うが。

- ・教員の確保が難しいことは承知している。物理的に無理ということなら途中で方向修正するということかまわらない。

- ・「低学年から」と「低学年において」では意味合いが異なる。新しい環境になじむためにも1年生を特に丁寧にということか。

・まずは低学年でということ。低学年においてという枠にはめないでほしい。過去に、学級編制の変更によってクラス的人数が急増し、学級崩壊の引き金になったという報道もあった。

・現状では空き教室がない小学校もある。しかし、教室はないとしても少人数指導は可能だ。学校側としては、教員だけでも増やしてほしいと思う。

・少人数学級は、教室に余裕のある学校から年次的に実施するというところでどうか。市民には不公平感が生じるかもしれないが、一斉に実施するのは難しい。

・いろいろ問題はあるが、財政、敷地、学校間のバランス等は事務局で考える。ただ、現状の県からの教員加配は有意義だと考えている。また、少人数指導なら、人は要るが場所（教室）は要らない。そういうことも考慮して生駒市ではどうするか、ある程度の方角性を出していただければいい。

前回までの話も含めてまとめると、小学校低学年は、少人数学級で基礎固めに力を入れ、高学年以降は生活面重視で少人数指導を行うという方向でいいだろうか。

・では、委員の皆さんに確認させていただく。

・少人数学級は低学年（小学校の1年生）からの実施が望ましい。

・少人数指導については、現状の県からの少人数加配では十分とはいえないので、市独自でプラスアルファが必要だと考えられる。

今後は、これらの点を念頭に置きつつ、検討を重ねるということでもいいか。

－ 異議なし －

・一斉に実施となると予算的に難しいが、年次的な実施が市民に受け入れられるかどうかも問題だ。すでに幼稚園についても預かり保育と3歳児の完全受入について提言をいただいている。行政としては、福祉事業や土木事業等も必要なので、財政上のバランスの問題もある。

・施設の増設が難しい場合、人を手当てして進めていくことも選択肢に入れるべき。このことは、共通認識として押さえておいていただきたい。

・学校間で規模に差があっても、校区の線引きを見直すことは難しいだろう。隣接校選択制を有効活用できないか。

・隣接校選択制は、「安心、安全で通いやすい」を基本に導入した。現状では、付加的効果（学校規模の格差是正）は得られていない。

・あれもこれもは無理だろう。市民に納得してもらえればいい。生駒市としての特色を出すために、もっと知恵を出し合わねば。

小学校からということで話が進んでいるが、例えば、中学3年生を少人数学級にして進路指導を綿密に行うという案はどうか。

・3年生だけ半分の人数になっても進路の問題は大変だ。基礎固めということで小学校からやったほうがいいのか。

・中学は新しい教科（英語）が増えるうえ、他の教科も内容的に難しくなる。また小学校とは異なる教科担任制に戸惑いもある。現在でも実施しているように、1年生で少人数指導を行うことが結局3年生で生きてくると思う。そう考えると、小学校から積み上

げることが大切ではないか。

- ・進路問題は生徒自身にとっても大きな問題なので、3年になると自分から自然に「学び」に向かい合う。私も、3年生で実施する重要性はあると思う。

- ・中学校での実施を考える場合、基本的には1年生がメインになると思うが、どの学年も大切だ。実際、私の学校では教科のことを考えて、英語は1・2年、数学は1・3年に加配講師を付けて、少人数指導を実施している。

- ・学力の低下について、中学生で九九ができない子どもの話が例に出されることがあるが、時間的な個人差があるものの小学校ではできている。しかし、漢字も同じだが使わないと忘れる。中学に入り勉強が難しくなり授業についていけず座っているだけでは、学校へ行きながら学力が落ちるということになる。その子なりに学力を積み上げていくためにも、小・中の連携が重要だ。

- ・教科によっては、小学校の高学年で少人数指導を実施するのもいいかもしれない。

少人数学級に限らず、県の加配にプラスして市独自で教員数を増やすことができれば今よりも手厚い指導が可能になるし、学校で特色を出すこともできるだろう。市のアピールになるし、市民の納得も得られると思う。また、校長や学校への支援策にもなるのではないか。

- ・それでは、これまでの意見を整理する。

- ・少人数教育については少人数学級（30人学級）をメインに考えることとし、まず小学校低学年からの実施を目指す。

- ・学校の現状から年次的に実施することも視野に入れる。その場合、物理的に少人数

学級の実施が不可能な学校は、少人数指導で対応することを検討する。

- ・小・中に限らず教員加配による少人数指導は可能かつ有効である。
- ・少人数教育（少人数学級・少人数指導）の実施は、学校の特色や確かな学力の育成につながると期待できる。

なお、市民へ説明ができるよう、生駒市が考える「確かな学力」とは何をさすのか、今後しっかりした定義を打ち出す必要があると思う。

・次回は少人数学級及び少人数指導について、物理的、人的、制度的にメリット・デメリットを含めて意見の整理をお願いします。対外的に報告する義務があるし、委員の皆さんには共通認識を持ってもらいたい。新たな課題が見えてくる可能性もある。

また、「預かり保育の実施要綱」及び「教育委員会への一次報告」についても素案を提出する予定なので、審議をお願いします。

最後に、所掌事務の第3号にあたる「その他の方策」についてだが、今のところ手付かずになっている。これについては、国の教育改革の動向を見ながら、来年度も検討を重ねていただくようお願いしたい。

では、次回の会議だが教育委員会の定例会前をお願いしたい。

— 日程調整 —

- ・それでは、次回は2月19日開催とし、本日はこれにて閉会とする。

以上